

こども教育課



学力向上を狙った授業の質保証に向けた取り組み
について

授業の質向上に向上に向けた4つの方針

1. 単元の見通しに力点を置いた授業構成
2. 振り返りを重視した授業構成
3. 授業研究の質的転換による学校風土の改善
4. ICTの活用



学力向上 人材育成



単元の見通しに力点を置いた授業構成

※ 単元・各教科における学習におけるつながりのあるひとまとまりのこと

現行の学習指導要領では

どのように教
えるのか



どんな力を付
けさせるのか

(従来) 「チョークアンドトーク」 中心
方法論に力点



(これからは) 「児童生徒の主体的な学び」 へ



単元のまとまりを見通したうえでつけたい力を明確にすることで、1時間単位
の授業質の向上につなげていく。指導案より → 単元計画へ

単元の見通しに力点を置いた授業構成の例

1	②	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
オリエンテーション	技群からポイントの技を構成する	技を構成する	技をつなげる							ミニ発表発表!	

<めあて>
接点系のポイント --- 体を球体にする!
ほん転のポイント --- 手、肩、腰は倒立姿勢が直線になる

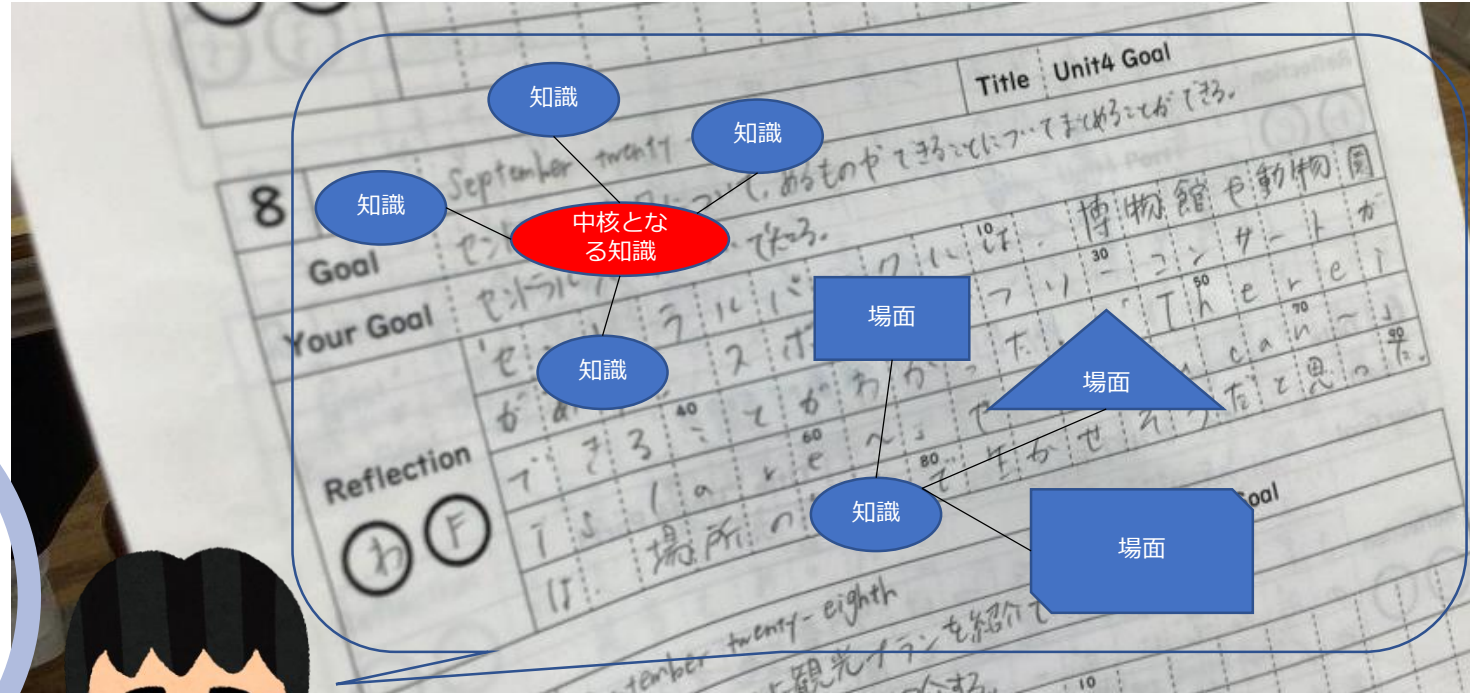
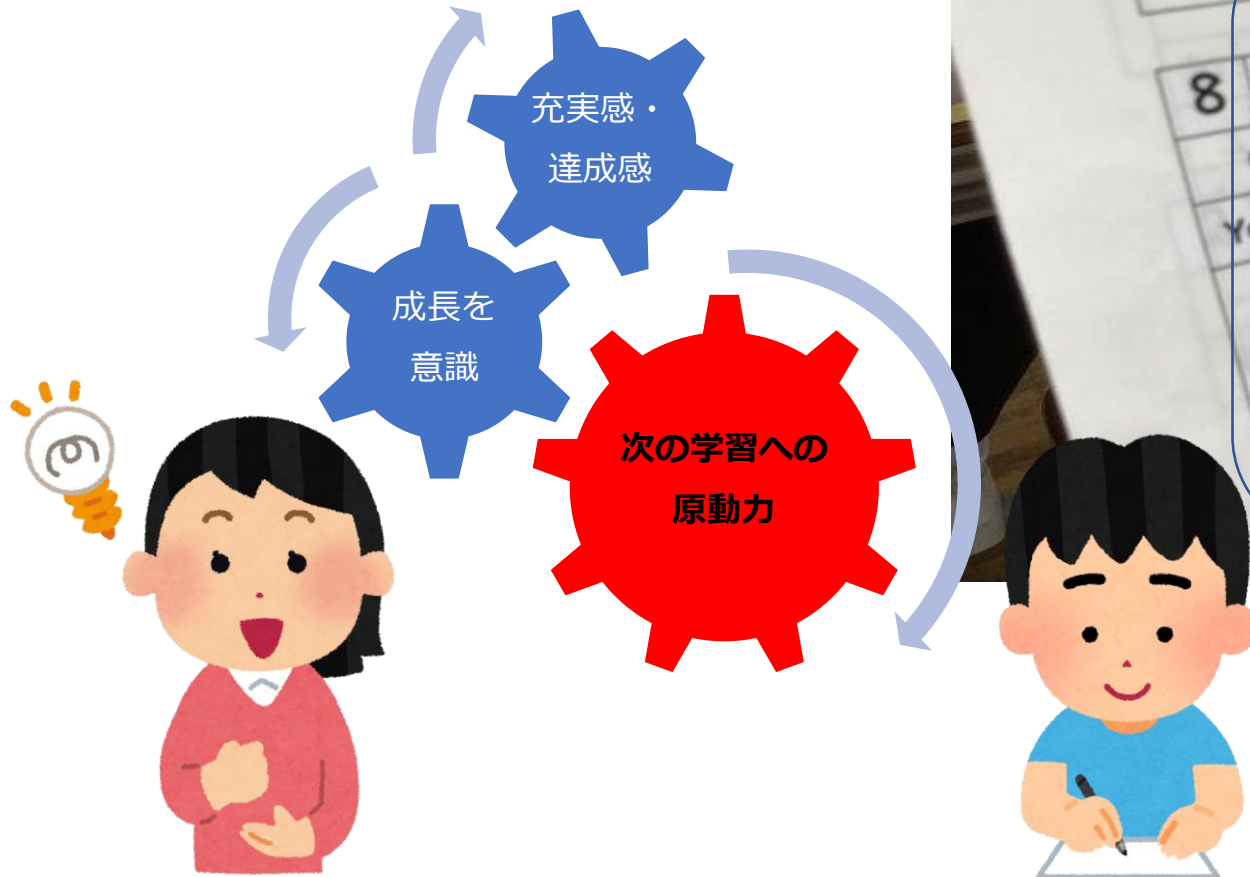
技群
前転、バック、開脚前転、後転、開脚、仰の背位置、三点倒立、倒立、倒転

授業の流れ
めあて 自由で
説明 グループ課題
達成を確認
振り返り
まとめ

期待する学びの姿を踏まえることで、導入の工夫や、展開の場面ですること、終末で欠かせないことがより明確になる。

振り返りを重視した授業構成

児童生徒の「主体的な学習」にも「振り返り」の重要性を意識



OPPAシートの例

「書くことの重要性」

→学びを丁寧に見つめ直し、様々な情報として知識を関連付けていく

授業研究の質的転換による学校風土の改善 1



「指導案の出来栄が重視」
「イベント的な授業」
「授業者の力量の品定め」



「気になった場面は“代案”の提案」
「キャリア、教科を超えて互いの違いを広く受け止めて「子どもの学び」を中心とした議論への転換

授業研究の質的転換による学校風土の改善 2

(生徒による授業アンケートの導入)

中学校以上では、生徒による授業アンケートを授業改善の資料として積極的に活用することを推進



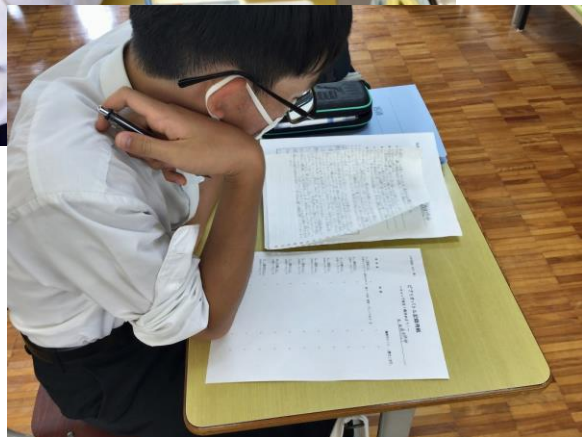
主体的な学びををを目指すうえで、**学習の主体である生徒の認識を重要な尺度としてとらえる。**

アンケートを通して必ず把握するのは「授業を受けて学力の向上や自分の進歩を実感できているか？」

この尺度が高い生徒は、その科目を学ぶことに対する自己効力感を保ち、興味関心を抱くことがデータ上有意

ICTの活用 1

GIGAスクール構想に伴う一人一台タブレットの導入により、児童生徒の学びの在り方が大きく変わった。高梁市では新しい学びの在り方に向けて積極的に実践を積み上げている。



個別最適化



学ぶ方法の自由



つながり

ICTの活用 1 (R4全国学力・学習状況調査 児童・生徒質問紙)

中学校第3学年

- 5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。(小学校第6学年)
- 1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。(中学校第3学年)

1.ほぼ毎日 2.週3回以上 3.週1回以上 4.月1回以上 5.月1回未満

「ほぼ毎日」、「週3回以上」と回答した児童生徒の合計 (%)

	高梁市	岡山県	全国
小学校	82.1	53.8	58.2
中学校	62.1	45.6	50.9

ICTの活用 2

県内でも先進的なICTの利活用の推進

県が発行する冊子や資料に本市の事例が多く掲載

家庭学習と授業の連携～1人1台端末を活用して～

岡山県教育庁高校教育課教育情報化推進室
岡山県教育庁義務教育課教育情報推進室

〇より実現しやすくなった家庭学習と授業の連携

GIGAスクール構想によって、全ての児童生徒に1人1台端末が整備され、授業における活用は、「慣れる」から「日常的な活用」の段階へと変化し、授業改善に端を発することが増えてきています。家庭学習においても、1人1台端末を持ち帰り、活用することで、「できること」が増え、家庭学習と授業を連携させやすくなります。

本資料では、「授業との連携」を意識した家庭学習を、1人1台端末を活用してどのように実現していくかを紹介します。

〇文部科学省の方針

文部科学省は「空席時から、持ち帰ったICT端末等を活用した自宅等での学習を行うことは、家庭学習の質を向上させる観点や、臨時休業等の非常時における学びの継続に有効に行う観点からも有効である。」と示しています。

〇教員・保護者・児童生徒の意識は…

端末を活用した家庭学習を推進していない学校や、まだ端末を活用した家庭学習に慣れていない学校では、次のような声がよく聞かれています。

教員

- ・端末を活用して、どのような家庭学習に取り組ませればよいのだろうか。
- ・授業と端末を家庭学習をどう連携させればよいのだろうか。

保護者

- ・持ち帰って帰ったら、修理負担は…。
- ・登下校中の荷物が増えるのでは…。
- ・長時間使用や、学習に関係ないことに使わないかが心配。
- ・そもそも、どうして端末を持って帰って宿題をする必要があるのか。

まずは、「学校、家庭、児童生徒」間で、端末を持ち帰る意義や課題の具体例、ルール等を共通理解した上で、端末を活用した家庭学習を推進してまいります。

OGIGAスクール構想によって進化した授業と家庭学習環境

端末クラウドを活用することで、授業における効率的なタイムマネジメントも可能となります。

授業

導入 展開 終末

家庭学習

導入 展開 終末

授業

導入 展開 終末

家庭学習

導入 展開 終末

授業

導入 展開 終末

間で共通理解しておくポイント

りに当たっては、保護者等の協力が得られるよう丁寧な説明

に伝える。

ーチャート等で分かりやす

しておく。

ト・パスワードを適切

ない等)


しておく。

望ましい主なポイント

タブレット端末持ち帰りに
ついてのご案内

保護者の方へ

保護者向けのパンフレットやFAQ
等を作成しておくことも有効です。
(高梁市教育委員会の事例)



「家庭学習と授業の連携～1人1台端末を活用して～」 岡山県教育庁高校教育課教育情報化推進室・義務教育課

教育時報

9
2022

説明②

家庭での端末利用の取組

高梁市教育委員会

特集 GIGAスクール構想のさらなる推進に向けて
～教育委員会及び各校の取組～






岡山県の最新教育情報を毎月お届け

岡山県教育委員会 みんなで学んで かがやく 未来

当初家庭での端末利用については、緊急時のみの想定で、積極的に進めていませんでした。その理由は、メリットを活かすというより、家庭によるインターネット環境の差や端末の破損の増加懸念等、どちらかといえば、デメリットの方にウェイトを置いていたと思います。

しかし、準備を進めていく過程で、学校の利用のみを基本に推進していき、効果が実用が実現できるのか、また、現実的に緊急時のみの準備を進めていくことが、

「小学校 自主 「みんなぶり」ことを問題にキンドライブにあり、もいつでも自由と、問題の(2)の2022年のス

宣伝し、また、児童は、その感に返事をするも仲間の存在をにがんばることです。

「教育時報」2022年9月号 岡山県教育委員会・岡山県教育広報協会